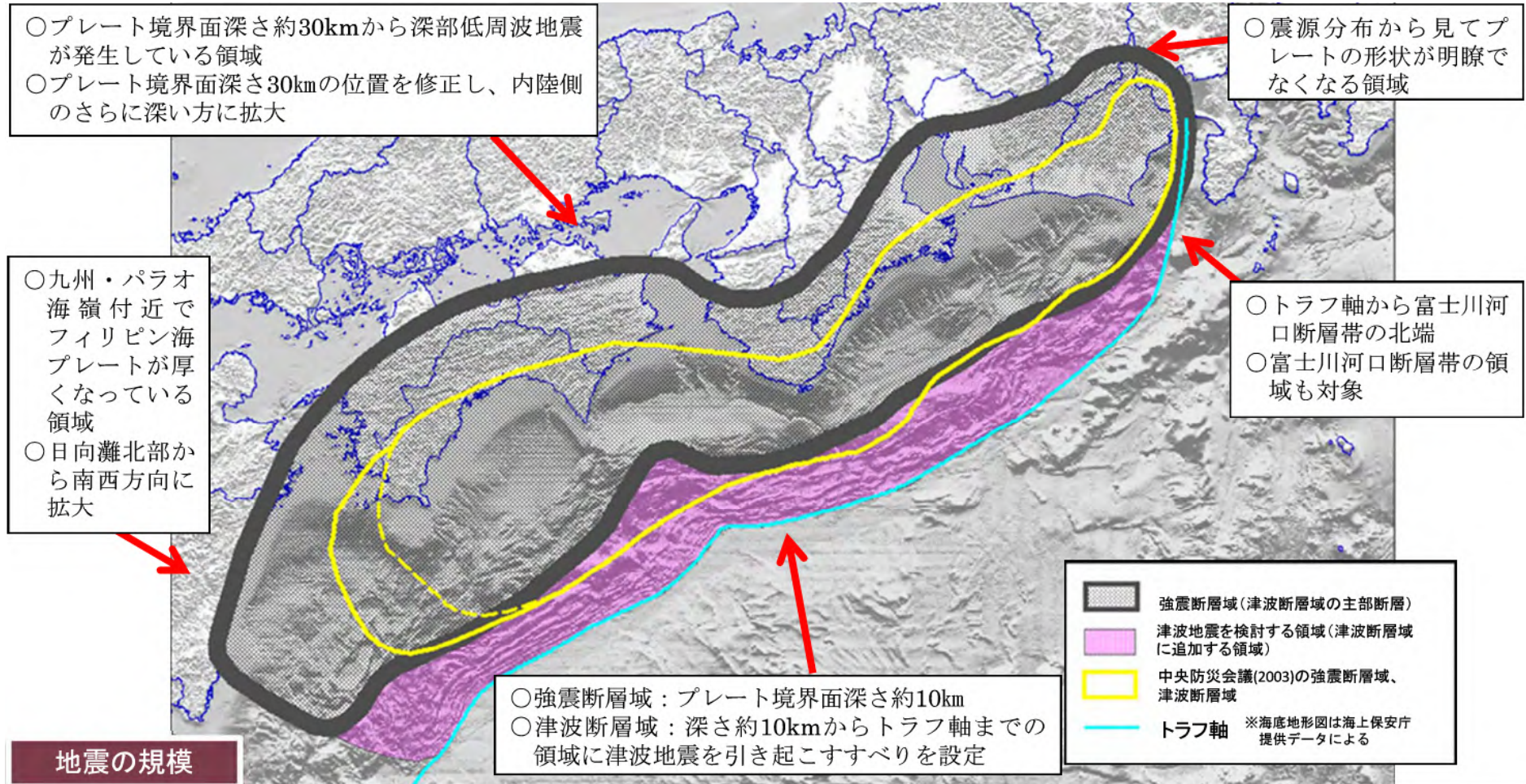


# 「南海トラフ地震に関連する情報」の発表について

平成29年10月30日  
気象庁

# 南海トラフの巨大地震の想定震源域(中央防災会議、2013)

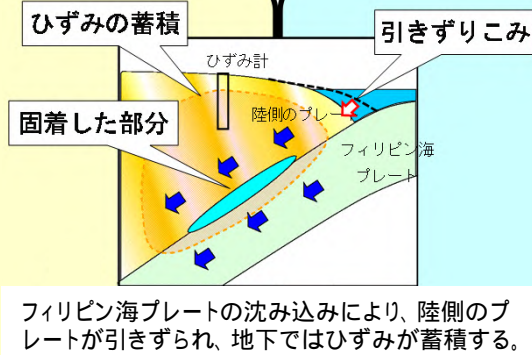


## 地震の規模

	南海トラフの巨大地震		参考			
	(津波断層モデル)	(強震断層モデル)	2011年 東北地方太平洋沖地震	2004年 スマトラ島沖地震	2010年 チリ中部地震	中央防災会議(2003) 強震断層域
面積	約14万km <sup>2</sup>	約11万km <sup>2</sup>	約10万km <sup>2</sup> (約500km×約200km)	約18万km <sup>2</sup> (約1200km×約150km)	約6万km <sup>2</sup> (約400km×約140km)	約6.1万km <sup>2</sup>
モーメント マグニチュード Mw	9.1	9.0	9.0 (気象庁)	9.1 (Ammon et al., 2005) [9.0 (理科年表)]	8.7 (Pulido et al., in press) [8.8(理科年表)]	8.7

# 地震予知について

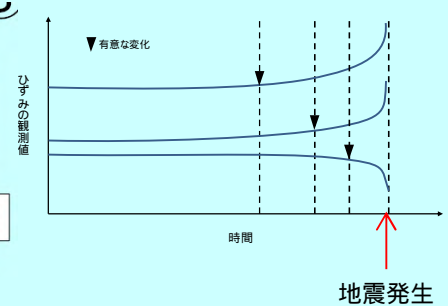
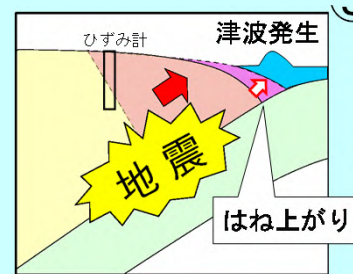
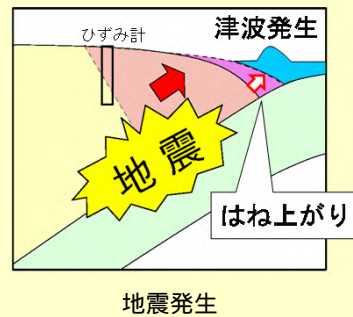
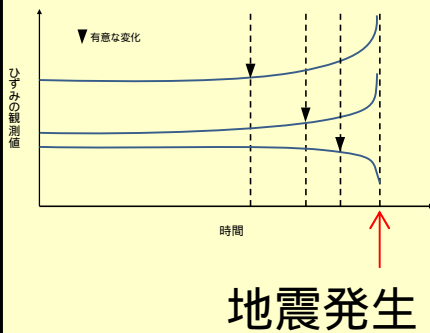
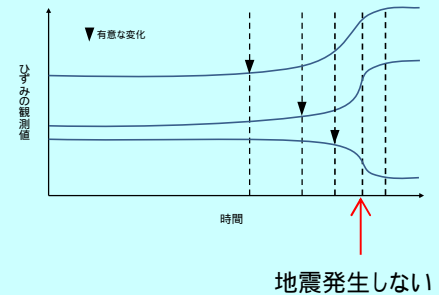
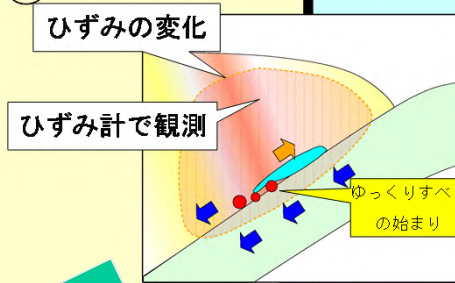
これまで



新しい科学的知見

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会報告書」(H29.8) 前駆すべりのほか、震源断層域内や震源断層域近傍でのゆっくりすべり、震源断層域内での比較的規模の大きな地震とその余効すべり、近傍で発生した地震の余効すべり等に引き続き、大規模地震が発生する事例がある。その一方で、震源断層域内でのゆっくりすべりの加速が発生しても必ずしも大規模地震が発生しないこともある。

ゆっくりすべりが発生すればそのまま地震発生に至るとされ、発生時刻の予測も定量的に可能と考えられていた。

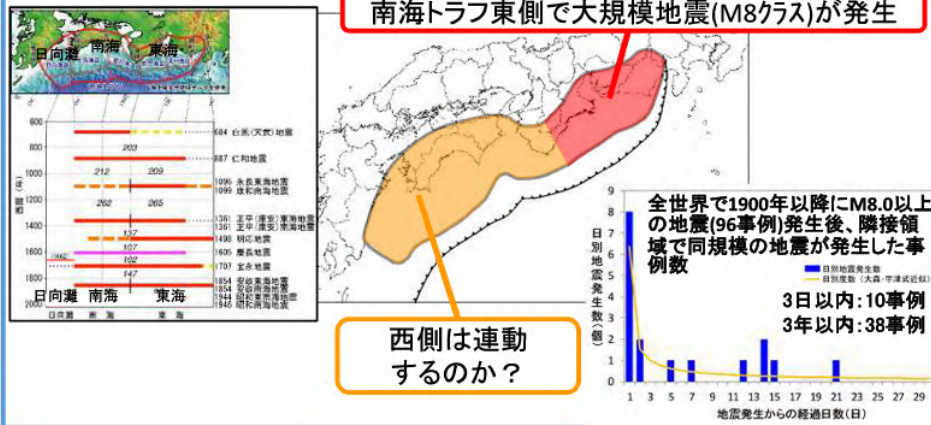


ゆっくりすべりの発生後、地震が発生する場合も、しない場合もある

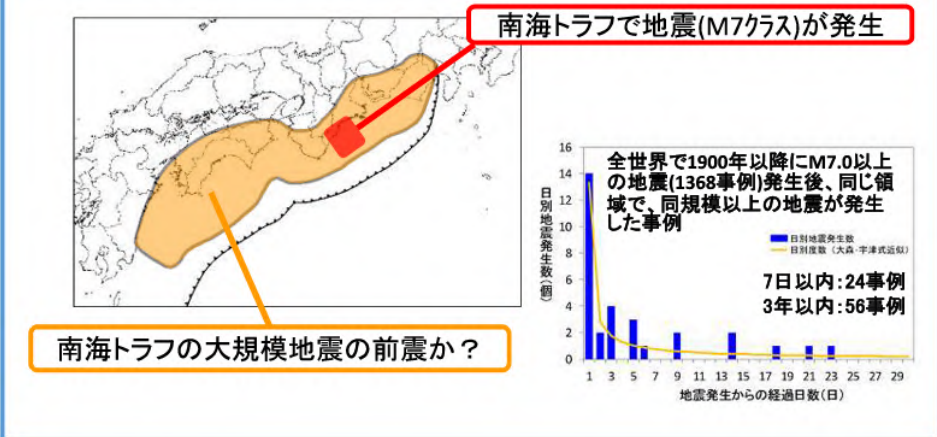


# 南海トラフ沿いで発生する典型的な異常な現象

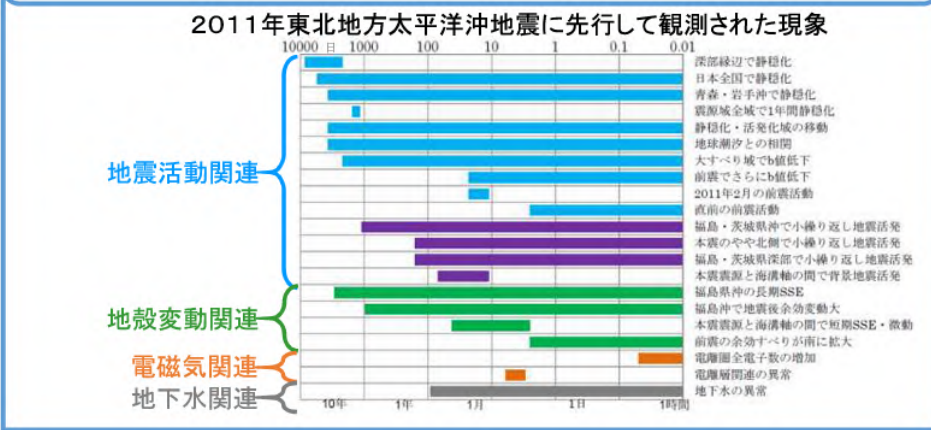
**ケース1** 南海トラフの東側だけで大規模地震が発生（西側が未破壊） ※直近2事例では、南海トラフの東側の領域で大規模地震が発生すると、西側の領域でも大規模地震が発生



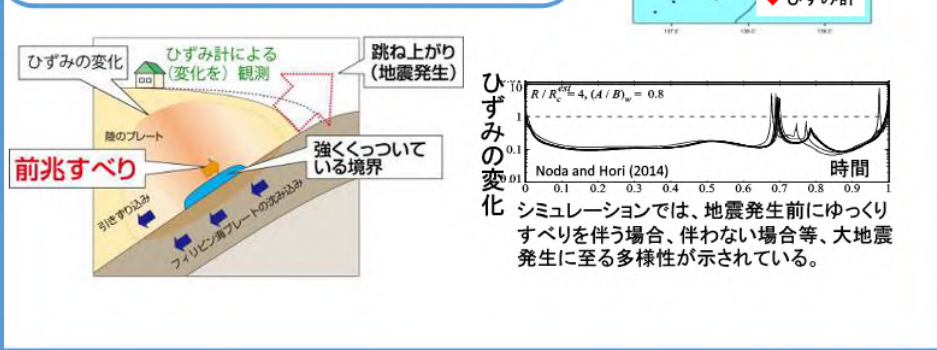
**ケース2** M8~9クラスの大規模地震と比べて一回り小さい規模(M7クラス)の地震が発生  
 ※南海トラフ沿いでは確認されていないが、世界全体では、M7.0以上の地震発生後に、さらに規模の大きな地震が同じ領域で発生した事例がある



**ケース3** 東北地方太平洋沖地震に先行して観測された現象と同様の現象を多項目観測



**ケース4** 東海地震の判定基準とされるようなプレート境界面でのすべりが発生  
 ※東海地域では、現在気象庁が常時監視



ケース3は、防災対応に活かす段階には達していない

## 気象庁の対応

平成29年11月1日から、気象庁では、以下の対応を実施した。

### 「南海トラフ地震に関連する情報」の発表

南海トラフ全域を対象として、異常な現象を観測した場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価した場合等に、「南海トラフ地震に関連する情報」の発表を行う(詳細は次ページ参照)。

### 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の開催

南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催。

この「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行う。

## 「南海トラフ地震に関連する情報」について

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震に関連する情報(臨時)	<p>南海トラフ沿いで異常な現象<sup>1</sup>が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合</p> <p>観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合</p> <p>南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合</p>
南海トラフ地震に関連する情報(定例)	「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」 <sup>2</sup> の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

1: 南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合などを想定

2: 従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行う。

本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報(東海地震に関連する情報)の発表は行わない。

本情報を発表していなくても、南海トラフ沿いの大規模地震が発生することもあります。

## 南海トラフ地震に関連する情報の当面の発表基準(案)

ここで示す情報発表基準は、「南海トラフ地震に関連する情報」運用開始の平成29年11月1日時点のものであり、運用開始後も有識者の意見を聞きながら、より適切な基準に見直す場合があります。

### 情報発表条件

- ①南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- ②観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合<sup>1</sup>
- ③南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合<sup>1</sup>

上記条件①の「調査を開始」する具体的な基準は、以下のとおり。

### 情報発表基準案

情報名	情報発表基準(案)
南海トラフ地震 に関連する情報 (臨時)	想定震源域内 <sup>2</sup> でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合 想定震源域内 <sup>2</sup> でマグニチュード6.0以上の(或いは震度5弱以上を観測した)地震が発生した場合で、ひずみ計で当該地震に対応するステップ状の変化以外の特異な変化を観測した場合 1カ所以上のひずみ計で有意な変化を観測し、同時に他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化を観測している場合など、ひずみ計で南海トラフ沿いの大規模地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測した場合 その他、想定震源域内 <sup>2</sup> のプレート境界の固着状況の変化を示す可能性のある現象が観測された場合等、南海トラフ沿いの大規模地震との関連性の検討が必要と認められる場合
南海トラフ地震 に関連する情報 (定例)	定期的に行われる「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の調査結果を発表する場合 (南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合は、南海トラフ地震に関連する情報(臨時)で発表)

1: 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の評価を受け、判断。

2: 南海トラフ地震の想定震源域(中央防災会議、2013)。

注: ひずみ計; 当面、東海地域に設置されたひずみ計を使用。



# 「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」に関する基本的な流れ

## 異常な現象( )が発生

南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合などを想定

### 南海トラフ地震に関連する情報(臨時)

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合に発表

「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」において、発生した異常な現象について評価

最短で2時間後  
程度を想定

### 南海トラフ地震に関連する情報(臨時)

南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性について調査中または可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合に発表

以後、随時

### 南海トラフ地震に関連する情報(臨時)

発生した現象及びその評価結果を発表

南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合には、その旨をお知らせし、情報の発表を終了



# ケース1を例とした情報や報道発表のイメージ

本資料はあくまで一例として掲載したイメージです。実際の情報内容は、その時の状況や「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」における評価結果を踏まえた内容になります。

## 概ね30分後程度を想定 【情報】

平成 年 月 日 時 分  
気象庁地震火山部

### 南海トラフ地震に関する情報（臨時）(第1号)

本日(○日)○時○分頃に遠州灘でM8.0(速報値)の地震が発生しました。

気象庁では、今回発生した地震と南海トラフで想定されている大規模地震との関連性についての調査を開始しました。このため、×時×分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を開催します。

調査の結果は、「南海トラフ地震に関する情報(臨時)」でお知らせします。

## 最短で2時間後程度を想定 【情報】

平成 年 月 日 時 分  
気象庁地震火山部

### 南海トラフ地震に関する情報（臨時）(第2号)

#### ○見出し

本日(○日)○時○分に遠州灘で発生したM8.0の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、(今回の地震から1週間程度、)大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。

#### ○本文

本日(○日)○時○分に、遠州灘でM8.0の地震が発生しました。この地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震です。

その後の地震活動の広がりから、今回の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

その後の地震活動は活発で、また、地殻変動データにはM8.0の地震に伴うステップ状の変化とそれに引き続くゆっくりとした変化が観測されています。【状況に応じ、地殻変動の特徴やその評価について記載(評価ができない場合は「調査中」)】

南海トラフの大規模地震の過去の事例では、1944年の昭和東南海地震の約2年後の1946年に昭和南海地震が発生しました。また、1854年には、安政東海地震の発生から約32時間後に安政南海地震が発生しています。このように、南海トラフでは、大規模地震の発生直後から数年のうちに隣接する領域で大規模地震が発生した例があります。

また、全世界で1900年以降に発生したM8.0以上の大規模地震96事例のうち、その後隣接する領域で同程度の規模の地震(最初の地震のM±1)が発生した頻度は、最初の大規模地震の発生から3日以内に10事例、4日から7日以内に2事例ありました。

これらのことから、南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、(今回の地震から1週間程度、)大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。

和歌山県沖から日向灘の領域で大規模地震が発生した場合には、西日本を中心に、強い揺れや大津波が想定【発生した地震の状況に応じて、想定される地震や津波について言及】されます。

今回の情報発表は、時頃を予定しています。  
なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

発生した地震に関する報道発表は、これまでと同様に適切なタイミングで行う。その際、南海トラフ地震に関連する情報の最新の内容を含める

報道発表資料  
平成○年○月○日○時○分  
気象庁

### ○月○日○時○分頃の遠州灘の地震について

#### ○地震の概要:

- ・発生日時 ○月○日○時○分
- ・マグニチュード 8.0(暫定値)
- ・場所及び深さ 遠州灘、深さ10km(暫定値)
- ・発震機構 北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型(速報値)
- ・観測された震度 震度7:静岡県○市、...

#### ○大津波警報 静岡県、伊豆諸島、...

今回の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

#### ○防災上の留意事項

たいへん高い津波が観測されています。高台に避難するなど身の安全を図ってください。特に大津波警報を発表している沿岸では甚大な被害が発生するおそれがあるので厳重に警戒してください。津波は繰り返し襲ってきますので、警報等が解除されるまで海岸や川沿いの低地に近づかないでください。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているおそれがありますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情がない限り危険な場所に立ち入らないなど、身の安全を図るように心がけてください。

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1~2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度7程度の地震に注意してください。特に今後2~3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。また、規模の大きな地震が発生した場合は、津波が発生する場合がありますので注意してください。

#### ○南海トラフの大規模地震との関連性

「南海トラフ地震に関する情報(臨時)」を発表しています。(別紙参照)

南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、(今回の地震から1週間程度、)大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。

【大規模地震の発生可能性について、調査中の場合はその旨を記載】

以下、地震活動の状況、緊急地震速報の発表状況などに加え、「南海トラフ地震に関する情報(臨時)」の全文や資料を掲載

## ケース2を例とした情報や報道発表のイメージ

本資料はあくまで一例として掲載したイメージです。実際の情報内容は、その時の状況や「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」における評価結果を踏まえた内容になります。

### 概ね30分後程度を想定 【情報】

平成 年 月 日 時 分  
気象庁地震火山部

#### 南海トラフ地震に関する情報（臨時）（第1号）

本日（○日）○時○分頃に三重県南東沖でM7.3（速報値）の地震が発生しました。

気象庁では、今回発生した地震と南海トラフで想定されている大規模地震との関連性についての調査を開始しました。このため、×時×分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を開催します。

調査の結果は、「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」でお知らせします。

### 最短で2時間後程度を想定 【情報】

平成 年 月 日 時 分  
気象庁地震火山部

#### 南海トラフ地震に関する情報（臨時）（第2号）

##### ○見出し

本日（○日）○時○分に三重県南東沖で発生したM7.3の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域の一部で発生したと考えられます。

このため、（今回の地震から1週間程度、）南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

##### ○本文

本日（○日）○時○分に、三重県南東沖でM7.3の地震が発生しました。この地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震で、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域の一部で発生したと考えられます。

その後の地震活動は活発で、また、地殻変動データにはM7.3の地震に伴うステップ状の変化とそれに引き続くゆっくりとした変化が観測されています。【状況に応じ、地殻変動の特徴やその評価について記載（評価ができない場合は「調査中」）】

過去の世界の事例では、1900年に降に発生したM7.0以上の地震1,368事例のうち、最初の地震の発生から7日以内に同規模以上の地震が同じ領域で発生した事例は24事例であり、その後の発生頻度は時間とともに減少します。この事例には、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（M9.0）が発生した2日前に、M7クラスの地震が発生していた事例が含まれます。

このため、（今回の地震から1週間程度、）南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。なお、南海トラフの大規模地震には多様性があり、大規模地震が発生した場合の震源域は、今回の地震の周辺だけにとどまる場合もあれば、南海トラフ全域に及ぶ場合も考えられます。

最大規模の地震が発生した場合、関東地方から九州地方にかけての広い範囲で強い揺れが、また、関東地方から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されます。

次回の情報発表は、 時頃を予定しています。  
なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

発生した地震についての報道発表は、これまでと同様に適切なタイミングで行う。その際、南海トラフ地震に関連する情報の最新の内容を含める

報道発表資料  
平成○年○月○日○時○分  
気 象 庁

#### ○月○日○時○分頃の三重県南東沖の地震について

##### ○地震の概要：

- ・発生日時 ○月○日○時○分
- ・マグニチュード 7.3（暫定値）
- ・場所及び深さ 三重県南東沖、深さ10km（暫定値）
- ・発震機構 北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型（速報値）
- ・観測された震度 震度5強：三重県○○市、・・・

##### ○津波警報 三重県、和歌山県、・・・

今回の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域の一部で発生したと考えられます。

##### ○防災上の留意事項

各地で津波が観測されています。津波警報を発表している沿岸では、高台に避難するなど身の安全を図ってください。津波は繰り返し襲ってきますので、警報等が解除されるまで海岸や川沿いの低地に近づかないでください。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているおそれがありますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意してください。

過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度5強程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。また、規模の大きな地震が発生した場合は、津波が発生する場合がありますので注意してください。

##### ○南海トラフの大規模地震との関連性

「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」を発表しています。（別紙参照）  
（今回の地震から1週間程度、）南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

【大規模地震の発生可能性について、調査中の場合はその旨を記載】

以下、地震活動の状況、緊急地震速報の発表状況などに加え、「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」の全文や資料を掲載

## ケース4を例とした情報や報道発表のイメージ

本資料はあくまで一例として掲載したイメージです。実際の情報内容は、その時の状況や「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」における評価結果を踏まえた内容になります。

### 1点のひずみ計に有意な変化があった場合【情報】

平成 年 月 日 時 分  
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関連する情報（臨時）（第1号）

東海地域のひずみ観測点で有意な変化を観測しており、変化が大きくなっています。

気象庁では観測されている現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうかの調査を開始しました。このため、×時×分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を開催します。

調査の結果は、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」でお知らせします。

<変化を観測したひずみ観測点>  
以下の観測点で有意な変化を観測しています。  
観測点 XX日XX時XX分頃から

また、以下の観測点で若干の変化を観測しています。  
観測点  
観測点

なお、南海トラフ沿いの地域の地震活動には特段の変化は見られません。

### プレート境界にすべりを推定した場合【情報】

発表した情報と同様の内容について、報道発表でもお知らせする。

平成 年 月 日 時 分  
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関連する情報（臨時）（第2号）

○見出し  
東海地域の複数のひずみ観測点で有意な変化を観測しており、変化が大きくなっています。これらの変化は、想定される南海トラフの大規模地震の震源域内でのプレート境界面のすべりに伴うものであると推定され、南海トラフの大規模地震発生の可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

○本文  
東海地域の複数のひずみ観測点で有意な変化を観測しています。また、他の観測点でも若干の変化を観測しています。これらの通常とは異なる変化は次第に大きくなる傾向があります。

<変化を観測したひずみ観測点>  
以下の観測点で有意な変化を観測しています。  
観測点 XX日XX時XX分頃から  
観測点 XX日XX時XX分頃から  
観測点 XX日XX時XX分頃から

これらの変化は、南海トラフの大規模地震の想定震源域内の静岡県中部付近におけるプレート境界面でのすべりに伴うものであり、すべりの規模は 日 時の時点でMwX.Xと推定されます。今回のすべりが発生した場所では、これまで同様なすべりを観測したことはありません。

これらのことは、プレート境界の固着状況に通常と異なる変化が発生していることを示していることから、南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

なお、大規模地震が発生した場合には、その震源域が東海地域にとどまらず、南海トラフ全域に及ぶ場合も考えられます。その場合、関東地方から九州地方にかけての広い範囲で強い揺れが、また、関東地方から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されます。一方、今後プレート境界面でのすべりが鈍化し、大規模地震の発生に至らない場合も考えられます。

**防災上の留意事項について言及**

次回の情報発表は、 時頃を予定しています。  
なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。



## (補足)南海トラフ地震に関連する情報について

今回説明した内容は、当面の措置として開始するものです。南海トラフ沿いにおいて異常な現象が観測された場合の防災対応の具体的内容や実施のための仕組みについては、今後検討されることとされており、その検討結果によって、今回ご説明した情報分類等が変更となる可能性があります。

「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」で指摘されている典型的な4ケースが複合的に発生する場合やこれらのケース以外の現象が発生する場合もあることに留意が必要です。

本情報の配信は、平成29年11月1日の開始時点では、「地震情報(地震の活動状況等に関する情報)」で用いる電文を使用予定です。防災情報提供システムでは、「地震情報」の「その他の情報」に掲載されます。本情報のより良い配信方法と連絡方法について、今後、ご意見を承りながら検討してまいります。

### 報道機関の対応

住民に対して日頃からの地震への備えの再確認を促す。  
(呼びかける今後の備えの例)

**家具の固定、避難場所・避難経路の確認、家族との安否確認手段の取決め、家庭における備蓄の確認**

# 気象庁HP「南海トラフ地震」特設ページについて 別紙1

## 「南海トラフ地震に関連する情報」の確認手順を紹介

国土交通省  
気象庁  
Japan Meteorological Agency

本文へ | 情報ご利用ガイド | ENGLISH | ご意見・ご感想  
サイトマップ

ホーム | 防災情報 | 各種データ・資料 | 知識・解説 | 気象庁

アクセスの多いコンテンツ

高解像度降水ナウキャスト | 危険度分布 |  
天気予報 | 週間天気予報 | 気象警報・注意報 | 台風情報 |  
天気図 | レーダー | アメダス | 気象衛星 10分毎 / 2.5分毎 |  
地震情報 | 津波情報 |

地域別に見る | 天気 | 地球環境・気候 海洋 | 地震・津波 火山

見たい地域を選んでください

北海道  
東北  
北陸 甲信 東海 関東  
中国 近畿  
九州 四国  
沖縄

● 注目のトピック

- 大雨・洪水警報の危険度分布
- 特別警報
- 竜巻など突風
- 推計気象分布
- 噴火速報
- 火山観測データ
- 長周期地震動
- 南海トラフ地震**

ホーム > 知識・解説 > 南海トラフ地震について

### 南海トラフ地震について

中央防災会議防災対策実行会議「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告(平成29年9月26日)では、南海トラフ沿いで発生する、大規模地震につながる可能性がある現象を観測し、その分析や評価結果を防災対応に活かすことができるよう、適時的確な情報の発表に努めることが重要であると指摘されています。また、国・地方公共団体はあらかじめ当面の暫定的な防災体制を定めておく必要があることも指摘されています。

この報告を踏まえ、新たな防災対応が定められるまでの当面の間、気象庁は「南海トラフ地震に関連する情報」を発表することとしました。この情報は、平成29年11月1日から運用を開始しました。

また、この情報を発表するため、南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために、「南海トラフ沿いの地震に関する評価

- 南海トラフ地震について
- 南海トラフ地震発生で想定される震度や
- 南海トラフ地震の予測可能性について

### 南海トラフ地震に関する情報

- 南海トラフ地震に関する情報の発表状況**
- 南海トラフ地震に関する情報の種類と発表条件

### 南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会

- 南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会とは

### 南海トラフ周辺の地震活動

- 南海トラフ周辺の週間地震活動概況

南海トラフ周辺の最近1週間の地震活動を解説しています。毎週金曜日の午後1時発行します。